

1 計画的に作業を進めましょう

○播種量、田植え予定日を考慮し、播種日を決めましょう（右表）。

○必要以上に育苗日数が長すぎると老化苗となります。

○あきたこまち、めんこいな、ゆめおぼこについては、播種量を乾籾 250 g 程度として無加温出芽で 20～25 日間程度の育苗で、機械移植の

適性が確認されています。（<https://www.pref.akita.lg.jp/pages/archive/53791>）

表 苗質の目安

播種量(乾籾)	100g/箱	180g/箱
育 苗 日 数	35日	25日
目 標 葉 数	3.5葉	2.5葉
目 標 草 丈	13～15cm	10～13cm

育苗計画(中苗100 g 播種の例)



2 適切な種子予措

①浸種の水温・水量に注意を

- ・種子消毒・浸種は屋内で行い、お湯で水温が 15℃になるように調整します。水温が 10～15℃を確保できるように、消毒・浸種の開始は早くとも 4 月上旬からとします。
- ・種子籾を籾袋に入れる際は、袋の 50～60%を目処とし、浸種水温は 10～15℃、浸種水量は種子容量の 2 倍程度（種子 1 kg に対し水 3.5 L）となるように努めます（水温が低いと発芽ムラや種子消毒の効果低下を生じます）。
- ・複数の品種、消毒方法の異なる種子を同じ容器で浸種・催芽しないでください。

②水の交換は適切に

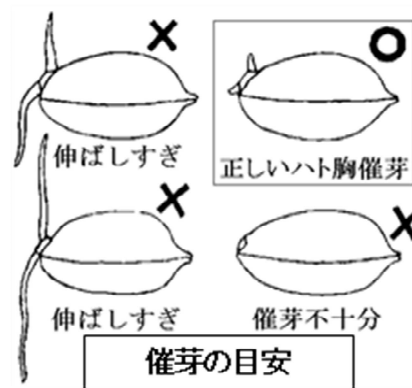
- ・種子消毒の効果が高めるため、浸種開始後から 2 日間は水の交換をしません。浸種期間は、浸種水温 10℃で 6 日～8 日程度、14℃で 6 日程度とし、種子消毒剤の安定した薬効を確保するため、水交換は 2～3 回とします。
- ・浸種終了の目安は、籾殻を透かして胚が白く見えるようになる頃です。

③催芽の前には必ず湯通しを

- ・催芽は芽の長さを揃えるために必要な作業です。袋内部の種子まで均一な温度になるよう、36～40℃の温水で必ず湯通しを行います。催芽温度は 30～32℃で、芽の長さはハト胸程度（催芽長 1 mm）とします。

④衛生環境

- ・種子予措を行う作業場所やその周辺を十分に清掃します。また、浸種・催芽時は容器にふたをします。容器等は使用前や品種、消毒方法が変わる毎に十分洗浄します。



3 出芽・育苗期間の管理（中苗の場合）

①出芽

- ・出芽長 5 mm 程度を目標に確保したら、被覆資材を除去します。伸ばしすぎは徒長苗の原因となります。出芽後の再被覆は、もみ枯細菌病等の発生を助長するため、行いません。

②水管理

- ・かん水は早朝に行い、1 回のかん水量を多く、回数を少なくします。育苗後半は、床土が白く乾いたり、葉が巻き始めた場合はかん水します。

③温度管理

- ・播種から出芽までは約 30℃、緑化期以降は 25℃以上にならないようにします。移植 1 週間前頃からは、低温日でない限り、夜間もハウスを開放して外気に当て、硬い苗に育てます。

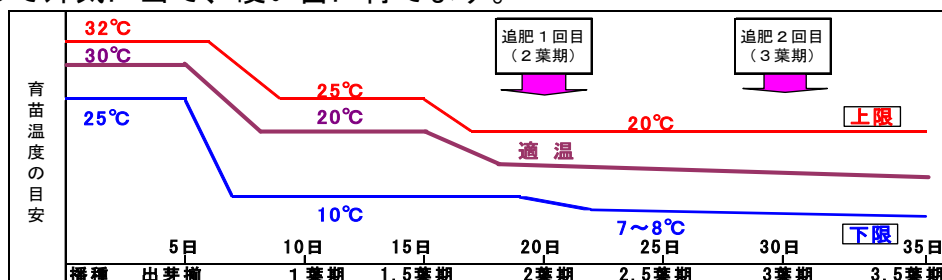
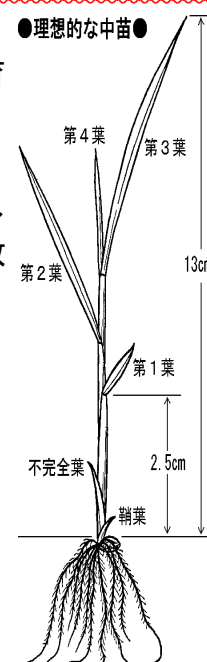


図 育苗温度の目安（中苗の場合）



④追肥

- ・追肥を行う場合は、窒素成分で箱当たり 1 g（2 葉期と 3 葉期頃）施用します。

⑤プール育苗の注意（稚苗、中苗）

- ・湛水は本葉が 1 葉以上になった頃とし、1 回目の湛水深は育苗箱の床土表面の高さまで（苗が冠水しないよう）にします。2 回目以降は床土から 1 cm 程度とします。
- ・苗が伸びやすいので、ハウス内の温度は慣行より低めに管理します。

4 いもち病の防除対策

- いもち病の発生は育苗施設からの発病・感染苗の本田への持ち込みが主な要因です。
- 育苗期いもち防除は下記表の薬剤を必ず実施し、育苗施設からの発病・感染苗の本田への持ち込みを防ぎましょう。
- なお、タフブロックやエコホープDJ（生物農薬）を使用した場合は、生物農薬による種子消毒の効果が低下するため、ベンレート水和剤の播種時処理は行いません。

○育苗期防除剤（苗いもち防除）

農 薬 名	使 用 時 期	希釈倍数・散布量
ベンレート水和剤	播種時～播種 7 日後頃（かん注）	1,000倍 1,000mL/箱
	播種時～播種 14 日後頃（かん注）	500倍 500mL/箱
ビームゾル	緑化始期（かん注）	500倍 500mL/箱

5 苗立枯病の防除対策

- 耕種的防除対策として、清潔な資材を使用するなど、育苗施設の衛生を保ち、栽培基準に基づいた適切な温度管理と水管理を行います。

- 苗立枯病菌は数種あり、それぞれ防除薬剤が違います。

- リゾプス菌に対しては、発芽後の薬剤防除は効果が劣るので、ハウス内の高温に注意し、ベタ張りを長期間行わないようにしてください。

リゾプス菌 フザリウム菌



ご質問は、JA かつの営農経済部 (23-2497) か鹿角地域振興局農業振興普及課 (23-3683) まで